

奥羽大学報



目次

平成18年度入学式	2
影山晴川育英奨学金授与式	5
第99回歯科医師国家試験	5
歯学部新入生学外研修	5
薬学部フレッシュマンキャンプ	6
大学院歯学研究科入学式	6
附属病院	7
私が薦める一冊の本	9
余滴	9
同窓会	10
同窓生のひろば	10
新任指定職紹介	12
新任教授紹介	15
平成18年度教学関係人事	18
客員教授・非常勤講師	19
人事	20
慶弔	22

107

平成18年度入学式

平成18年度入学式が、4月4日(火)午前10時から記念講堂において挙行された。当日は天候にも恵まれ、開式は10時であったにもかかわらず、朝早くから希望に満ちた表情の新入生が校門をくぐっていた。

式は、国歌斉唱、永井正博薬学部長の学事報告の後、多くの出席者が見守る中、各学部ごとに新入生全員が呼名された。清水秋雄学長から入学許可が宣言されると、この日より大学生となる感激を新たにしている様子だった。

さらに学長の告辞の後、新入生を代表して歯学部歯学科片岡駿也君から宣誓があり、続いて成績の優れた新入生に対し、奥羽大学影山晴川育英奨学金が授与された。来賓の影山英之理事長、父兄会を代表して坂口亘弘歯学部父兄会長から祝辞があり、最後に教員が新入生とその保護者に紹介され式を終了した。なお、奨学金を授与された新入生は次のとおりである。

歯学部 歯学科 小野寺由香
 〃 児玉 節子

薬学部 薬学科 大沼洋一郎
 〃 山本 史高



告 辞

学 長 清 水 秋 雄

本日、平成18年度奥羽大学入学式を挙行するに当たり、ご来賓の晴川学舎理事長影山英之先生はじめ、役員・関係各位のご臨席を賜り、また多くのご父兄のご列席を戴き、衷心より御礼申し上げます。

新入生諸君、晴れてこの良き日を迎え、今日までの努力に対し敬意を表するとともに、ご父兄ともどもお喜びのこと、同慶のいたりであります。

本年度入学式は、歯学部第35期生ならびに6年制初の薬学部第2期生を迎え、本学にとって昨年に引き続き特記すべき式であります。

医療系学部として、よく用いられる医、歯、薬、また医歯薬三師という用語があります。これは、三者が一体的な密接な関係にあることを示しています。医学、歯学部は、既に6年制の医療、社会医学系教育を重視した体制をとっています。薬学部もこれに準じ、6年制へと移行することになり、医療の核となる医歯薬学の教育体制が整ったこととなります。すなわち、患者の視点に立った、人間性豊かな医療人の育成に的が絞られてきました。

諸君が幼少期に思い描いた進路には、かなり幅があり、揺れ動いていたことでしょう。学年が進むにつれ、特に受験期には具体的に決めなければならず、結果、本学の学部を選択しました。本日の入学式を機に、将来の進路を現実を示したことになります。

かつて、医療は治療そのものでしたが、今日では疾病像、健康観、医療事情が変化し、健康な人には健康増進や予防を、病気をもつ人には治療を、治療後には機能回復をと、医療内容の幅が広がり、健康状態全般を包含するようになりました。最近では、国策としても寿命の延長から、生き生きとした社会生活を送れる健康寿命を如何に延ばすかに転換し、国民自身も病気に罹る前の健康管理、予防に関心を持つようになりました。

かたや医療の対象は、すべての年齢層に跨がっていますが、特に病気の好発期にあり、

蓄積する高齢者の医療需要が増加傾向にあり、さらに人口構造の変化による需要量の急増が見込まれています。高齢者は、身体、生理、精神的機能が減退し、それに伴う病気の多発、日常の生活動作の低下をきたし、対応に細心の配慮を要する年代層であります。

本学には、多様な健康状態の、幅広い年齢層を対象とする医療の現場において、それに対応し得る教育プログラム、施設、教員スタッフが整備されています。

諸君には、大学の諸施設を有効に活用し、またクラブ活動仲間、教職員、さらに社会的活動を通じた幅広い人間的交流によって、本学の建学の理念である「人間性豊かな有為な医療人」へと接近するよう念じています。

諸君は、将来の医療を担う要員として、地域社会から大きな期待を寄せられています。それに応えるべく、学問の修得には厳しく臨み、思いやりのある、温かい医療が施せる医療人を目指し、健康で充実した学生生活を送るようお願い、告辞といたします。

祝 辞

理事長 影山 晏 弘

おめでとうございます。

只今、学長から本学に入学を許可された皆さんの胸中は、喜び一入のことと思います。

これは皆さんの努力の成果であることは紛れもないことですが、同時に、ご父兄の深いご理解と温かい励ましのお賜であることも忘れてはなりません。

本日は、本学の原点である創立者についてお話しします。

今でこそ、教育と医療の扉は、多くの人に開かれておりますが、20世紀前半は経済的に恵まれた家庭の子弟でなければ、満足な教育や十分な医療を望むことは許されない時代でした。なかでも創立者の家庭はとても貧しく、小学校に通うだけが精一杯の経済状態でしたので、14歳のとき、左肢に大きな怪我を負いましたが、十分な手当てを受けることも出来

ませんでした。それが元で、17歳の時には歩行不自由な身体障害者になってしまいました。

それ以来、治ることのない骨髄炎の手術の繰り返しで、全身に受けた疵痕は50歳の時には30数ヶ所にもなりました。

不自由な毎日の生活の中での目標は、他人様に迷惑を掛けない一人前の社会人として独立することでした。

努力の甲斐あって、幾つかの職場勤めを経験し、歯科技工士の手職を身に付け、独立を果たしました。

次に目指したことは、社会的立場の弱い人々の力になることでした。昼夜の別なく頑張る、身体障害者の更生事業所を幾つか興し、周囲から信頼を寄せられる身分になった頃、あらためて、此処福島が、医聖野口英世を輩出している、歯科医療に関しては過疎地であることを強く感じ、地域医療の振興のために歯科大学の設置を決心し、本学の前身である東北歯科大学を創立いたしました。

創立者の座右銘は「志ある者 事遂に成す」であります。「志」即ち人生における目標であります。人生に大切なことは、大きな夢と高い目標を確りと持つことです。

一人のための世界や自分だけの未来などある筈がないのですから、自分のしたいことばかりを追及せず、相手や周りが今、自分に何を望んでいるのかを考え、それに応えるための努力を続けることの素晴らしさを理解できる人間になっていただきたい。

学ぶことは、理解することです。大いに学んでください。

建学の精神である「豊かな人間性」がそこにあります。

皆さんは「歯科医師」または「薬剤師」を目指して、今その道を一步踏み出したのですから、何としても達成していただきたい。本日同席した皆が、そのことを希っております。

皆さんには協調性と主体性を身につけた、ゆとりと思いやりのある人間になっていただきたい。そして若い力と心意気で、規律ある平和な未来社会を築き上げてくれることを希っております。

新入生の皆さん、元気で頑張ってください。
本日はおめでとう。

祝 辞

歯学部父兄会長 坂口 亘 弘

平成18年度、奥羽大学新入生の皆さん、ご入学おめでとうでございます。

又、ご列席のご父兄の皆様、お子様達のご入学、誠におめでとうでございます。心よりお祝い申し上げます。

歯学部、薬学部の父兄を代表いたしまして、ご祝辞を申し上げます。

昨今、確たる目的意識もなく、定職に就かない若者が増える中、将来は歯科医師に、薬剤師にと、はっきりした志をもって、本学に入学された皆さんは、大変すばらしい選択だと思います。しかし、本年度より、世の中の要求に答え、より質の高い人材を育成するために、歯学部においては、卒後1年間の臨床研修が必修となり、薬学部においては、6年制への移行と大きな制度変更が実施されました。

ご父兄の皆様には、就学時間の増加に伴い、経済的負担も増え大変ですが、新入生の皆さん、これから6年間、緑豊かな学び舎で、奥羽大学建学の精神である、「豊かな人間性」「国際性と主体性」を培い、質の高い医療人を目指して悔いのない充実した学生生活を送られる様、切に希望いたします。

最後になりますが、奥羽大学父兄会は、大学の整備発展に協力し、学生の修学と福祉に寄与するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的としております。

本校の更なる発展と、学生達全員の所期目的を達成するよう、皆様方のご協力の程をお願いいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうでございます。

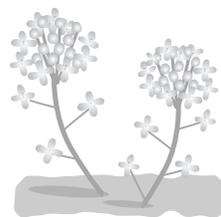
宣 誓

新入生代表 片岡 駿 也

本日は、私達一同にとりまして生涯忘れることのできない大きな喜びであります。

ただ今、学長先生の告辞をいただき、大学生としての自覚と責任の重大さを強く認識いたしました。

私達入学生一同は、ひとときの喜びにおごることなく、一日一日の積み重ねを大切にして、建学の精神を尊び、学則を守り社会に役立つ人間を目指し、学業に専念することを誓います。



影山晴川育英奨学金授与式

この奨学金は、奥羽大学創立者の故影山四郎氏の遺族よりの寄付金を基金として平成2年3月30日に設立されたものであり、成績・人物ともに優秀な学生に給付されるものである。

本年度は次の学生6名に対し、この栄えある奨学金が給付されることとなり、去る4月18日(火)、学長室において清水秋雄学長から奨学金とメダルが授与された。

歯学部歯学科

第3学年	小松 紀子	熊野 毅
第4学年	横山 絵里	田中 克典
第5学年	堀 佑輔	高雄 亮



第99回歯科医師国家試験

第99回歯科医師国家試験は2月11日(土)・12日(日)に行われ、その合格者が4月5日(水)に発表された。

本学の合格者は新卒者が68.3%で、既卒者を含めた総数では65.6%であった。

歯学部新入生学外研修

平成18年度新入生学外研修(新入生オリエンテーション)は4月6日(木)・7日(金)の両日、福島県岩瀬郡天栄村大川羽鳥湖自然公園にあるブリテッシュヒルズにおいて実施された。今回はさらに近くの天栄村交流促進センターのフェスティバルパーク・天栄も研修施設として用い、それぞれ特色ある雰囲気の中で、研

修を行うことが出来た。

参加者は95名、引率者は歯学部長、学年主任(学生部長)、クラス担任とカウンセラー車田文雄講師、看護部降矢香奈子看護師、学生課谷代尚人主任、櫻井映理子事務職員のほか、今回は態度教育を重視し、1学年の病院体験学習の担当者である板橋仁講師と、菅野勝也、江口和彦、長田智久、高崎俊輔の4名の病院助手も加わった。

第1日目は英国の伝統と重厚な雰囲気の中で開講式などが行われ、午後からフェスティバルパーク・天栄に移動し、ここでは開放的な雰囲気の中で、「エンカウンターグループ」を行った。自己紹介から始まる様々なプログラムの中で、新入生の緊張と不安は徐々に取り除かれ、終了時はお互いに打ち解けた雰囲気となり、会話も弾んでいた。ブリテッシュヒルズに戻り、クラス担任、病院助手とのミーティングでは、学生生活をはじめ勉強法など熱心な話し合いがなされた。

第2日目は「アクティビティ」で小グループに分かれ、外国人スタッフとの交流を通して、英会話、スヌーカー、クッキング、アロマセラピー、ブリテッシュスポーツを楽しみながら、異文化に触れることが出来た。今回の研修も男子学生はネクタイ着用で、身だしなみを重視し、態度教育の一環としても有意義な2日間であった。

(鈴木 陽典)



薬学部フレッシュマンキャンプ

今年も1年生のフレッシュマン・キャンプ(FC)が4月6(木)・7日(金)、昨年同様「裏磐梯猫魔ホテル」を会場に開催されました。希望に満ちた入学生が一堂に集い、6年間共に過ごす仲間との有意義な時間を共有し、薬学を学ぶ意義や薬学生としての心持ちを真剣に学びました。

4月6日(木)、出発に先立ち、清水秋雄学長より「高齢者の医療を考える」をテーマに講演を頂き、バスにて研修先に向かいました。初日はこれから始まる大学生活に早く溶け込めるよう仲間作りに力点を、2日目は医療の担い手になるという意識を持つために学長講演のテーマをもとに話し合いを行いました。

今回のFCで新入生は多くの友達との出会いの機会を得、奥羽大生活の始まりに相応しい楽しく有意義な時間をもったことと思います。このFCがこれから築き上げる1年生の素敵な奥羽大ライフの種となれば幸いです。

最後に、同行して頂いた清水秋雄学長をはじめFCスタッフの皆様にご心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

4月6日(木)

- 8:30 集合
- 9:00 学長講演「高齢者の医療を考える」
学長 清水秋雄
- 10:20 バスへ移動
- 10:45 出発
- 12:15 チェックイン、昼食
- 13:30 オリエンテーション、
アイスブレイキング
- 16:00 構成的グループエンカウンター
(クラス別)
- 18:30 親睦夕食会
- 20:00 ナイトプログラム
- 23:00 就寝

4月7日(金)

- 7:00~9:00 起床及び朝食
- 9:00 グループディスカッション(学長講演のテーマをもとにディスカッ

ションを行った)

- 10:30 グループごとの発表
- 11:20 昼食
- 12:20 バス移動で大学へ
- 13:30 解散(1号館前)

(野沢 幸平)



大学院歯学研究科入学式

平成18年度大学院歯学研究科の入学式は、4月6日(木)に行われた。清水秋雄学長、天野義和歯学部長、鈴木康生大学院研究科長及び大学院教授の列席のなか、まず3名の新入生の入学が許可された後、清水学長より、告辞が述べられた。新入生が在学中に大きな成果を挙げる事が期待される。

(大学院入学者)

- 今田 玲美
- 長崎 慶太
- 和田 隆史



附属病院

平成18年度登院式

歯学部5年生の登院式が、4月5日(水)の午後1時から臨床講義室においておごそかに挙行された。式には天野歯学部長、清野病院長および関係教職員が出席した。登院する91名が呼名された後、歯学部長より健康に十分に留意し人間性豊かな歯科医師をめざして実習、勉学に励むよう訓辞があり、次いで病院長から診療部門の一員としての自覚を持って診療参加型臨床実習に取り組むよう訓辞がなされた。

今年度から新たな臨床実習体系となり、プレクリニック（臨床予備実習）が4月10日(月)から7月8日(土)、その後本格的な診療参加型臨床実習が7月10日(月)から平成19年の6月30日(土)までおこなわれ、その間、朝の50分間は基礎系と臨床系の教員による臨床セミナーが組まれた。さらに学年主任、クラス担任およびチュータの計13名による、きめ細やかな個別指導体制も整えられた。

新たな体制により、学習が促進され実り多き臨床実習になることを期待するものである。

(大野 敬)



歯科医師臨床研修開始式

平成18年度歯科医師臨床研修は、去る4月10日(月)に開始式が挙行され、61名（本学卒業生56名、他大学卒業生5名）が本学附属病院歯科臨床研修医として登録された。開始式では天野歯学部長より「患者中心の全人的医療を理解した上で、歯科医師としての人格を涵養し、すべての歯科医師に求められる基本的・総合的な歯科診療能力を身につけ、生涯研修の第一歩とする」との歯科医師臨床研修の目的について挨拶があった。さらに清野病院長より、安全で安心な治療を目標とした研修への訓辞が述べられた。

今年度からの歯科医師臨床研修は、「診療に従事しようとする歯科医師は、1年以上、歯学若しくは医学を履修する課程を置く大学に附属する病院又は厚生労働大臣の指定する病院若しくは診療所において、臨床研修を受けなければならない（歯科医師法第16条の2第1項）」、「臨床研修を受けている歯科医師は、臨床研修に専念し、その資質の向上を図るよう努めなければならない（歯科医師法第16条の3）」、「厚生労働大臣は、臨床研修を修了した者について、その申請により臨床研修を修了した旨を歯科医籍に登録するとともに、「臨床研修修了登録証を交付する（歯科医師法第16条の4）」、「臨床研修修了歯科医師でない者が診療所を開設しようとするときは、開設地の都道府県知事等の許可を受けなければならない（医療法第7条第1項）」、「病院又は診療所の開設者は、その病院又は診療所を臨床研修修了歯科医師に管理させなければならない（医療法第10条第1項）」、等で義務化された初年度がスタートした。また、さらに今年度は、本学歯学部附属病院単独型歯科医師臨床研修プログラム（本学附属病院のみ）と本学歯学部附属病院複合型歯科医師臨床研修プログラム（本学附属病院8ヶ月と協力型研修施設4ヶ月）に応募した歯科医師臨床研修医のマッチングの初年度でもあり、多くの関係者が見守る中での式典であった。

研修歯科医師が自発的かつ積極的に研修

し、多くの症例を通して基本的な技術・知識はもとより、歯科医師としての社会性や人間性も学び、充実した研修期間となることを期待する。

(高橋 和裕)



歯科専門学校(歯科衛生士科)臨床実習オリエンテーション

本学の姉妹校である東北歯科専門学校、歯科衛生士科2年生(57名)の臨床実習は、本学附属病院をはじめ県内の医療機関、保健センター等で実施されます。本院での臨床実習は4月5日(水)から12月20日(水)まで行われますが、それに先立ち、午前9時よりオリエンテーションを開催しました。医療人としての心構え、実習心得、附属病院の概要などの説明およびスタッフ紹介が行われ終了しました。

(和高 明美)

旅客機上での乗客の救命

昨年夏、附属病院内における万が一の事態に備え、全職員に対する救命講習が行われました。しかしながら、院外で救命の現場に遭遇することはないだろうと考えておりましたが、本学大学院 伊藤寛先生が偶然にも旅客機内で乗客の救命処置を経験しました。2月27日、搭乗した国内線(福岡発→羽田着)は乱気流のため、機体は大きく揺れ続け、ベルト着用サインは常灯していました。乗客急変の知らせがあり、医療関係者の呼びかけに応じたところ、乗客は意識が低下しており、酸素投与下にモニターを装着し、静脈確保の準備をしている間に状態が回復してきたために点滴は確保せずに経過観察としました。ストレッチャーにて搭乗口まで搬送し、家族に引き渡されていきました。数週間後に航空会社より礼状と記念品が送付され、日頃の救命コース研修がいざという時に非常に役立つ事を実感しました。院内での救命講習会も継続的に行っていききたいと思います。

(山崎 信也)



私が薦める一冊の本

『^{はたち}二十歳のエチュード』

(原口 統三著、角川文庫)

本書と出会った時、まさに私も二十歳であった。全共闘運動に挫折し、鬱屈した日々を悶々と過ごしていた。この運動から脱落した私は、魂の抛り所をもとめて書籍の森の中を彷徨った。そのさなか、私は本書に遭遇したのだった。

一高生であった原口統三は純粹さを突き詰め、結果、昭和21年10月、19歳と10ヶ月で、湘南の海に歩み入り自殺を遂げた。本書は、原口の遺稿集である。当時、私自身死を思わない日は無かったから、原口が二十歳満たずして自死した事実にはさほどの衝撃は受けなかった。それよりも本書中で発揮される原口のフランス語力に圧倒され打ちのめされたのだった。ランボー、ボードレール、ヴァレリーなどフランス文学の錚々たる作家が原文を含め自在に引用されている。ここで私の原口に対するフランス語コンプレックスが生まれた。19歳と数ヶ月の原口がここまでフランス語を読みこなしているのに、なぜこの私には読むことができないのか。まずは私の勉強不足だった。その後、本書は私のフランス語力を押し量る基準となり、自分のフランス語力の進歩を確認するため、時を置いては読み返すことになった。原口に追いつき追い越せ。しかし、何年経っても原口を越えた気がしない。そして、ある時、思い知った。死を覚悟した人間のすさまじさには到底かなわないと。

純粹さを求めて永遠の生に到るのか、死に到るのか。原口は死を選んだ。ふと我にかえれば、この私は純粹さを求めることも忘れ、むなしく馬齢を重ねている。しかし、自らの生の歩みを止めることのできない私という凡人でも、一瞬一瞬を大事に生きることはできる。読み返すごとに本書は、そんなことを私に思わせてくれる。角川文庫版は手に入りやすいが、昨年『定本二十歳のエチュード 付 死人覚え書』(ちくま文庫)として復刊され容易に入手可能となっている。(藤井 史郎)

余 滴

イギリスの各所を訪ねていて、きまって感心させられることがある。それはイギリス文化のゆたかな恵みということである。よく知られているように、大英博物館等の文化施設の入場は基本的に無料であり、特別展の入場料も低廉である。施設の大きさと多くのスタッフを考えると、これは驚くべきことである。国家からの補助金の他、入場者や篤志家からの寄付・関連グッズの販売など、無料入場を維持するための必死の努力にとっても感動する。筆者は英国石炭採掘業の実態を知るために、新築された大英図書館をたびたび訪れたが、カードの発行、図書や各種施設の利用等、私的利用(コピーや飲食)を除いて、すべて無料であった。所蔵図書の豊富さも抜群で、日本ではとても入手できない第一級資料を多数調査することができた。

この各種施設の無料利用政策は、研究者・留学生・観光者・市民等にとってはゆたかな恩恵である。一見地味な外観の建物ではあるが、館内は快適でゆったりしていて、入場者は鑑賞と思索に好きなだけ身をまかせることができる。こういった文化的な施設は経済活動だけでは得られない、人間としてのゆたかさを提供する貴重な場所ではないだろうか？

あと一年で文学部も幕を閉じる予定である。文学部教員の購入した各種研究・教育図書が大学内外の研究者やその他の一般市民に有効利用され、本学の文化政策のゆたかさや恵みを実感してもらうことはできないだろうか？懐の深いイギリスの文化政策に感嘆しながら、最近はこのことを夢想している。

(石川 勝久)

同窓会

歯学部同窓会

皆様お元気で過ごしのことと思います。

私は平成13年から奥羽大学歯学部同窓会学内支部長の6期生、清野晃孝です。

平成17年度は会員数169名の大所帯であり、役員は副支部長：板橋 仁（9期生）、副支部長：千葉 有（14期生）、会計：中川敏浩（12期生）、監事：車田文雄（6期生）、監事：佐藤 純（12期生）で運営しております。

現在、まさに年度末であり、当学内支部はそれぞれの都合により退職者が少なくなく、寂しい限りです。さらに表現は決して良くありませんが、開戦前夜の緊迫感の中にあるのは私だけでしょうか。それは、4月1日（土）からの新歯科医師臨床研修制度の施行と診療報酬改定です。奥羽大学歯学部附属病院は臨床施設群（昔の複合型）の管理型施設としての第一歩を踏み出すことになり、期待と不安が交錯しています。

当院のプログラムを紹介しますと、12ヶ月全て当院で研修する単独型90名と、8ヶ月を当院、4ヶ月を協力型施設の1カ所で研修する複合型が30名の定員でマッチングを行いました。全国のマッチング率は93.9%であり、当院に対して本学以外の希望者も20名以上いました。もちろん国家試験合格発表後に研修医数が確定しますので、学内支部が何人の新入会員を迎えることができるかはまだ分かりませんが、学内支部発足以来、最大の会員数になることでしょう。

18年度の歯科医師臨床研修を、指導医および病院スタッフが一九となり充実させることが、いずれ全国の学生から選ばれる病院になることに寄与するものと確信いたします。本学では教員としての資質の向上のためワークショップを定例開催し、学部教育と歯科医師研修の充実を目指しております。同窓の皆様のご更なる叱咤激励をお願いいたします。

（清野 晃孝）

同窓生のひろば



岩崎 正喜

（歯学部5期生）

桜が咲き、新入生が大学にも入ってきてフレッシュなエネルギーがみなぎってる頃だと思います。

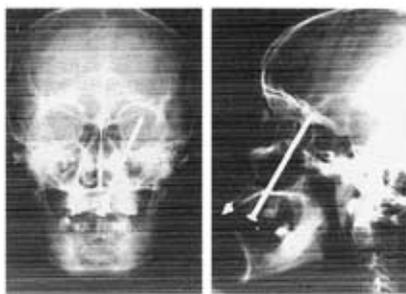
この度は群馬県同窓会長の加藤先生より今回の原稿を依頼され大変恐縮しております。

学生時代には今はなき日進荘に住み、代々受け継がれてきた先輩方を手本とした生活を送り、寝食を共にすることで良き仲間にも出会うことができました。週末には私自身と同様に、所在がつかめない藤田先生や橋本（隆）先生や大野教授などと、携帯電話の無い良き時代を過ごし、自由奔放な生活を続けた結果、遂には大家の寝室と襖ひとつで区切られた隣の部屋に移動させられることとなったこと、大学の自由な環境の中で仲間達と飲み明かしたり、校内で騒ぎあったりしたことも楽しかった良き思い出です。このような生活を続けながら無事6年で卒業し、卒後は群馬大学に勤め齊藤先生をはじめとする良き先輩方に公私にわたりご指導していただき、楽しい病院勤務・医局員生活を経験しました。大学で学んだ知識や技術が実際の現場において生かされることに感動し、公立大学卒の先生と同じレベルと知り、それが同時にわずかな自信も得ることもつながりました。また様々な先生方と出会うことでお互いに影響を与えあい、高めあうことができたと思っています。

その後蕨塚という小さな町で開業し、患者さんの要求に応えることを目標に現在も日々精進しております。歯科が、人間らしく生きる最初の第一歩である食欲を満たす入り口であり、QOLを高めるものと感じております。水津先生のエンド、村岡先生の総義歯、シークエンシャルオクルージョン、マルチループエッジワイズ、片山先生のペリオ、TMJへのアキシオグラフなど、何か困ったら聞いてく

ださい。同胞の先輩から後輩に残せることは何でも教えます。信じてそのエキスパートになる。するとなにかが見えてくるようです。摂食嚥下に取り組む先生も多いでしょう。参考になる本やビデオも在ります。先輩を使いましょう。日々発展を遂げる医学に終着点はなく、医学の本質がそうである以上、新しい知識や技術を身につけて自分自身を高め成長させていくことは不可欠であり、50歳になった今も在宅診療や矯正の方法を学ぶ講義などを通じて気づけることや学ぶことは多く、改めてこの職業の難しさや奥深さを実感すると共に、それを学び生かせる喜びを感じています。今では生涯にわたってひとつひとつ積み上げてきたことに満足感を得られるこの職業に就いて本当によかったと思っています。卒業してから20数年がたった今も「通過点」に過ぎず、この先何年経ってもその時もまた「通過点」なんだと思っています。

最後に驚きの症例を経験しました。下の写真をよく見てください。このヒトは助かりました。ラッキーな人なんですね。



今田 将文

(英文科14期生)

大学を卒業して、もうすぐ1ヶ月経とうとしています。大学生活4年間は思ったよりもあっという間に過ぎ、すでに社会人としての1年目が始まっています。

大学では4年間でいろいろなことがあり、中にはあまり経験できないようなこともありましたが。特にアメリカ・シアトル、カナダへの海外研修はとても良い経験になったと思います。シアトル・ワシントン大学での授業だけでなく、ホームステイも経験できたことが何より楽しく、良い経験、思い出になりました。

現在は、大学生の頃と全く違った生活になっています。大学生の頃は、毎日、授業に出る時間が異なり、かなり不規則な生活でした。今は当然ながら、出勤する時間が同じなので毎日規則的な生活を送っています。

今は主に果物を扱った仕事をしています。扱う物は果物そのものや加工品など様々です。仕事内容も事務的な仕事や通信販売、直営店の手伝いなど様々です。とにかく覚えることがたくさんあるので忙しい日々が続いています。また、ほとんどの仕事が今までに経験したことのないことで、慣れるまでにはもうしばらくかかりそうです。

私の地元は山形なので、これからさくらんぼの季節になります。そうするとさくらんぼの注文などが多くなり、これからより一層忙しくなります。しかし、それを乗り切って、この仕事を続けていくことができると信じ、これからも精一杯頑張っていきたいと思います。

—(株)ジェイエイトんどうフーズ勤務—

新任指定職紹介



歯学部長

天野 義和

この度、歯学部長を務めさせて頂くことになりました天野義和です。

他の人よりも優れた才能の持ち合わせや秀でた指導力がある訳でもなく、歯学部長という役職に甚だ不安を感じているのが現状ですが、皆さんに協力をして頂き、何事にも前向きに臨みたいと思っています。

現在、先ず最初に取り組むことは、大学基準協会と医療系大学間共用試験実施評価機構への加入ですが、これは今まで築いて来られたものに更に検討を加え教職員が一丸となって対処しております。

学生に対しては、建学の精神である「人間性豊かな歯科医師を育てる」には勿論幅広い教養を身につけることは当然ですが、情緒豊かにして感性を養い、情操も豊かにして道徳的かつ芸術的な知的感情をいかにして身に付けさせるかを検討したいと思っています。

教育に対しては1、2年次では基礎的学力を、3、4年次には専門的学力が身に付き、5年生ではこれらを基に十分な病院実習が行えるように、そして6年次では今までに学んだ学力の向上が図れるよう教職員一同が努力して行きたいと思っています。

国立と異なり、私立の特徴は多くの学生を卒業させ、国家試験に多くの人を合格させることにあると考えております。

学外においては同窓の先生方に本学歯学部 of 更なる発展のため色々のご協力頂くことと思っておりますがどうか宜しくお願い致します。



文学部長

青木 義孝

このたび改めて文学部長に任命されました。よろしくご支援ご鞭撻をお願いいたします。

文学部は、残念ながら、平成19年3月末で姿を消す運命にあります。これまでに文学部を巣立って行った卒業生は4,064名に上ります。今年度の学生は4年生46名のみであり、この諸君が文学部最後の学生になります。教員も学部閉幕と同時に本学を去りますが、現在は17名が文学部専任教員として留まっております、他に19名の兼任や非常勤の先生方の協力を得て、毎週75コマの授業と夏季集中講義2科目を展開して、学生諸君の必要に応じて行きます。

現4年生の場合、ほとんどの諸君が卒業に必要な124単位のうちの110単位以上をすでに修得しており、これらの諸君は特段のことがない限り卒業に問題ありません。修得単位が100単位に達していない学生も数名いますが、それらの諸君にしても、頑張って卒業したいという意味を表明しており、私たちもこの決意が途中で挫けないことを期待しています。学部としても、全員が卒業できるよう、特別指導などで後押しする予定です。

日文と英文の学生には必修科目として、卒業研究あるいは卒業演習があり、また、教職志望者には教育実習が待っています。これらの科目は特に自主的・積極的学習が不可欠であり、それぞれの分野での知識を深め確実にするよい機会です。学生諸君が身につける知識や技能は、人生において杖となり力になってくれる筈です。学業に集中できる大学生活最後の1年間に一人一人が自己形成に努め、卒業後には周囲から信頼される人物になってほしいと願っています。



附属病院長

清野 和夫

歯科医療を取り巻く環境が社会的、経済的に大きく変化しているなかで、本学附属病院に求められる地域社会からの期待は膨らむ一方であります。このような時期に附属病院長の職を拝命し、その責任の重大さに身の引き締まる思いがいたします。

本学附属病院は、地域歯科医療の中核病院として、高度な先端歯科医療を提供するとともに、本学歯学部と東北歯科専門学校の教育を担っています。今年度からは歯科医師臨床研修が必修化され、これまで以上に多くの研修歯科医を迎えることになり、より適切な運営と管理が要求されるようになります。臨床研修は、附属病院のほか、同窓の先生方を中心とした全国30数か所の医療機関でも実施することになります。このような時、最も重要となるのが医療の安全性です。安全な医療の提供は医療の基本であり、患者様が安心して受けることのできる高度医療の提供こそが附属病院の基盤であると思います。

幸いにも歴代の病院長を中心に培ってきた安全で安心な高度医療の提供は地域社会に受け入れられ、多くの医療機関から紹介患者様が来院するようになりました。これからも、より安全で安心な高度歯科医療を提供し、患者様から親しまれる病院を目指して行きたいと思えます。

教職員の皆様とはもちろんのこと、同窓の先生方とも共に歩んで行きたいと考えていますので、何卒、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。



歯学部学生部長

鈴木 陽典

本学にとって本年度は大学基準協会への加盟や、医療系大学間共用試験実施評価機構への参加実現に向けた重要な時期であります。学生部委員の経験も浅い私が、学生部長の要職を拝命することになり、その責任の重さを痛感しております。微力ではございますが全力を尽くす所存でございます。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

本年度はモデル・コア・カリキュラムに基づく新カリキュラムと旧カリキュラムの混在する最終年で、来年度からは6年一貫教育の新カリキュラムとなります。これらの再編に伴い、1学年では新しい科目の取り入れや、5学年では診療参加型臨床実習に即した科目が昨年度より開始されておりますが、移行期には様々な問題を生じることもあります。学生部では新カリキュラムへの円滑な移行が実現できるように配慮し、学生、教職員の双方に無理のない的確な教育環境の実現に努めたいと思えます。

学生部の使命の一つは、教育効果を十分に発揮させるために、教育方法の改善に努力するということですが、これまでの学生部が推進してきました、教育現場における学生と教員および教員間の信頼関係構築のための情報開示と共有、学生教員相互の評価システムの確立および適正化につきましても継続してゆきたいと考えております。変革の時期ですが常に教育理念を忘れず、事に当たりたいと思っております。



文学部学生部長

加藤 幸一

文学部開設の年に本学にお世話になって以来、瞬間に17年の歳月が流れました。文学部の歴史とともに様々な学生を見てまいりましたが、現在文学部には4年次生46名が在籍するのみであります。この46名が卒業する今年度末で文学部は閉じられることになっております。このような大学の節目の年に、学生部長という大役を拝命し、責務の大きさを痛感いたしております。

学生部長は、学生の厚生、教学、就職の実務を担当することとなっておりますが、最も大きな使命は、今年度末に46名の学生を無事卒業に至らせることでありましょう。心配される学生が何名かおりますが、それぞれの状況を見極め、丁寧に指導してゆく必要があります。教員相互の連携を図り、効果的な教育が行われるよう工夫してゆきたいと考えております。微力ながら全力を尽くす所存であります。

しかし、言うまでもなく単位の修得も卒業も学生自身が自らの努力によって成し遂げるものであります。学生諸君がより一層奮起し、真剣に学業に取り組んで充実した最後の一年を送ってほしいと思います。そして、それぞれが内側に大きな力を蓄えて卒業証書を手にしてくれることを切に願っております。

ご父兄の皆様、関係の皆様のご理解とご協力をお願い申しあげ、学生部長就任のご挨拶とさせていただきます。



大学院研究科長

鈴木 康生

このたび、大学院研究科長の大役を拝命致しました。その責務の大きさを痛感するとともに、微力ではありますが大学院研究科の充実と発展のために、引き続き全力を尽してまいりたいと思っております。

近年の科学の進歩・発展はめざましいものがあり、医学・歯学の分野でも生命科学、再生医療、新しい医療機器・材料の開発等の研究も進んでいます。大学においては大学院が研究活動の基盤となり、さらに各専門分野での幅広い研究がなされます。本学大学院においても、これまでの研究成果をもとに、より一層の活性化を推進していききたいと思います。

平成17年度からは、大学院は新しい組織となり、4領域・19専攻科で学際的な研究が展開するよう編成されました。また教育面では平成16年度から新しい授業計画にもとづきカリキュラム編成がなされ、実施されてきました。2年間で1クールとして授業科目が生まれ、必要かつ興味のあるテーマの講義を選択履修できる体系を策定しました。今後はさらに充実させていきたいと思っております。

また、一人でも多くの優れた大学院生を確保して大学院定員の充足をはかり、活性化に繋げていくことも現在、重要な課題となっております。

本学大学院の充実と発展のために、担当教員の先生方のご協力を頂くとともに、ご父兄、同窓の皆様にはご理解とご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

新任教授紹介



歯学部 口腔衛生学講座
廣瀬 公治

この度、伝統ある奥羽大学の一員となることができました。これもひとえに先輩諸先生の温かいご支援があったからこそと、深く感謝しております。

私は明海大学大学院で口腔微生物学を専攻し、主に歯周病原性細菌が及ぼす宿主の免疫応答に関する研究を行ってきました。そして、口腔微生物学の基礎的研究から得た技能や知見を、口腔疾患の集団予防を考究する口腔衛生学のフィールドで応用したく、北海道医療大学で研究を続けてきました。その間、成人集団における歯周病原性細菌線毛検出頻度の検索、歯周病原性細菌のヒト歯肉組織への付着機構の解明などを手がけてきました。

さて、近年の歯科医学教育方法が講義主体の「伝授型」からPBLチュートリアルのような「問題解決型」にシフトしていると言われています。しかし、どのようにその型が変化しようとも、本学の建学の精神「豊かな人間性を育成する」は不変であります。

「環境は人を造る」といいます。私は、まず自らが豊かな人間性を持つべく、平日は本学キャンパスのすばらしい庭園にある木々や草花を愛でながら、また休日は福島の海川で釣り糸を垂れながら、それぞれが恵まれた環境の中に自分を置くことでその陶冶に努めたいと思います。

これからは率先垂範、すばらしい教職員と力をあわせ、口腔衛生学講座の教育と研究を着実に充実、進展させることで、本学の発展に貢献すべく微力ながら力を尽くす所存でございます。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



薬学部 薬品製造化学
曾根 孝範

3月30日に社長主催の送別の宴を最後に、31年間の会社生活に別れを告げ、郡山に参上しました。生まれは柴又帝釈天の近くの小岩、東京大学薬学部～博士まで薬品製造化学を専攻しました。入社した旭化成の勤務地は宮崎県延岡市、宗兄弟の全盛期で、マラソン、駅伝の強さは抜群でした。芋焼酎の洗礼も受けました。ドラッグデザイン～有機合成～活性スクリーニングのサイクルをまわす創薬探索研究を行い、今年の日本薬学会創薬科学賞を賜ったRhoキナーゼ阻害剤エリル（くも膜下出血後の脳血管攣縮治療薬）を発明しました。1987年東京日比谷に移り、脳神経外科領域の臨床開発を任せられ、夜の銀座によく出没しました。安全性にヒヤヒヤしながら、プラセボ対照の二重盲検を成功させ、なんとか1995年に厚生省よりエリルの製造承認をいただきました。

同年、伊豆大仁に単身島流しとなり、地酒菊源氏の旨さを知りました。製剤研究所長を拝命、DDS研究の難しさを痛感し、結局、ICHに追いつくようGMP整備に没頭しました。最後の2年は神田で、薬事法改正に向け、信頼性保証部長、総括製造販売責任者として、品質保証（GQP）と安全性管理（GVP）を担当しました。

創薬科学をスタートからゴールまで担当するのは稀なことですし、技術屋として経験しなかったのは、MRと工場長程度です。民間企業での研究開発はもちろん、企業組織の一員としてのいろいろな体験を、本大学での職務にうまく生かすことができ、結果としてすばらしい薬剤師を育てることができればと思っております。



薬学部 微生物学
岩間 正典

本年4月1日(土)に薬学部教授として任用されました岩間です。よろしくお願いたします。主として微生物学分野の科目を担当いたします。最近は新興・再興感染症の増加や検出技術の進歩などにより、微生物学の重要性が見直されて来ていることをひそかに喜んでいます。

私は星薬科大学に長く在職したあと、ここ5年近くは長岡高専で生化学分野を教えていました。しばらくぶりの薬学に戻ってみれば、6年制がスタートし、また奥羽大学を含めて多くの新設校ができて、かなり厳しい状況になっていることを痛感しています。今年の薬剤師国家試験の合格率は大幅に低下し、すでに合格者総数の抑制が始まったかのようです。十分な基礎学力の涵養と国試対策とはなかなか相容れない部分がありますが、高専での経験を踏まえて、成果の上がる講義にするべく努力したいと思っています。

研究面ではリボヌクレアーゼを中心とした加水分解酵素の構造・活性相関研究を続けています。RNA研究そのものは今流行ですが、RNA分解酵素研究はかなり地味な分野です。ただ中には、抗腫瘍作用などの生理活性があるものがあります。最近新規酵素を見つけましたので、その生理活性にも期待しているところです。同じ分野の教員と共同研究を積極的に進め、研究の効率を高め、幅を広げていくつもりです。

今まで2ヶ所の学校の教員を経験していますが、奥羽大学にはまた別の特徴があり、まだ戸惑う部分が多々あります。早く慣れて授業・研究以外にも多くの寄与ができるよう頑張っていく所存ですので、よろしくお願いたします。



薬学部 機能形態学
石幡 明

4月上旬、東北道を北から郡山に向かうと、福島あたりで雄大な吾妻小富士が現われ、山腹に雪うさぎと呼ばれる残雪がきれいにのぞめました。福島に帰ってきたと実感する瞬間ですが、雪うさぎはゴールデンウィーク、田植えの頃に出現していたように記憶しています。これも異常気象のせいなのでしょう。

十数年間にわたり雪国山形に住みましたが、今年の冬は、記録的な寒さと積雪でした。車に乗るには、まず雪に埋もれた車の雪かきからはじめます。雪は駐車場の片隅に積み上げていきます。早朝、除雪車が道路の両側に雪と氷の塊をごろごろと寄せていきますから、駐車場から道路に出るところも片づけなくてはなりません。30分や1時間はすぐに経ってしまい、冷えていた身体もぼかぼかと汗ばむほどになります。

ところで、郡山の緯度はサンフランシスコとほぼ同じです。この4月から本学薬学部で機能形態学等を担当することになりました。まず頭に浮かんだのが郡山はあたたかい街だろう、もう雪かきいらぬなあ、ということでした。住んでみて感じたのは、猪苗代湖と郡山の関係が、ミシガン湖とそこを渡った風が吹き抜ける“Windy City”シカゴにより近いことです。自然、風土が人を育むといえます。学生ひとりひとりの能力を開花させ、自ら積極的に学び社会に貢献できる人材を育てていく一助になればと願っています。

【略歴】福島高校、東北大学医学部卒、山形県立中央病院等で臨床研修後、山形大学医学部で基礎医学研究(薬理学、生理学)。1994年～96年Indiana大学およびVanderbilt大学医学部留学。日本薬理学会、生理学会、基礎老化学会、国際心臓研究学会、心脈管作動物質学会等に所属。薬理学会学術評議員。



薬学部 薬理学

荒井裕一朗

平成18年4月より本学薬学部でお世話になることになり、大変うれしく思っています。担当は薬理学分野です。私は薬学部学生時代での卒業実習では薬理学教室を選びました。その理由は、薬理学が苦手だったので国家試験受験のためにが目的でした。その後、大学院でも薬理学を専攻してしまいましたが、薬理学の面白さを覚えました。当初は炎症と抗炎症の研究に携わりました。のちに、テーマは大きく変わり、モノアミン酸化酵素の生化学的な研究でした。ちょっとした縁で、スウェーデン王国のウメオ大学、ヨーテボリ大学、ウプサラ大学で研究する機会が出来まして、そこで種々の神経精神疾患にモノアミン酸化酵素が絡んでいることを学び、それ以来、これに行動薬理学を加えた研究を続けています。

3月下旬に郡山に参りまして、第一印象は寒いことです。このくらい寒いほうが教育研究には適しているのでしょうか、とスウェーデンでの生活を思い出しました。

昔の医療やくすりに対する考え方と現在とでは大きく異なり、最近の医学薬学の進歩のすばらしさには驚きを感じます。特に手技や機器の進歩のほか、患者様を主体に医療を行う姿勢であるソフト面が大きな違いのひとつと思われます。本薬学部にとって本学は幸いにも歯学部、附属病院を有します。この利点を活用し、将来、本学が有能な薬剤師を輩するばかりではなく、本学が、本学出身者が医療分野でのすばらしい発信源、重要拠点となるようにその一助となればと考えております。よろしく申し上げます。



薬学部 薬理学

米原 典史

はじめまして、薬理学分野の米原典史です。私のプロフィールを簡単に紹介させていただきます。生まれ育ったところは鳥取県倉吉市です。熊本大学薬学部そして修士課程(薬物学教室)修了後、大阪大学大学院医学研究科博士課程(第一薬理学教室)に進み、関西の地で研究活動のスタートをきりました。

当時は神経情報伝達物質と受容体に関わる研究が華やかかなりし頃でしたので、私に与えられた研究課題はアセチルコリンの定量法を確立することでした。この結果を元に“前シナプスアセチルコリン受容体に関する研究”で学位を取得しました。阪大歯学部で職を得ることになり、それ以来27年近く、口腔領域では、重要な症状の一つである“痛みと炎症”に研究テーマを定め、主に薬理的、生化学的手法を用い研究ならびに教育を行ってまいりました。縁あり、生まれて初めての東北、ここ郡山の奥羽大学の薬学部で最後の教員生活をおくることになりました。薬学部でスタートした私の教育、研究生活は、医学部、歯学部と移り、振り出しに戻ったこととなります。少しでも薬学教育のお役に立てれば幸いです。

熊本時代は、九州の山々を登ることが楽しみでした。ここ郡山周辺にも美しい山々(安達太良山、磐梯山、尾瀬)が連なっていますので、時間を見つけて登りたいと思っています。三月下旬、引越し早々春雪に見舞われました。地面から吹き上げる風雪にただただ驚きました。これからどのような四季を体験できるか怖くもあり楽しみでもあります。しばらくは、ニューヨークの留学時代に戻り、単身生活です。

よろしく申し上げます。

平成18年度教学関係人事

〈歯学部学年主任及びクラス担任〉

学年	主 任	クラス担任
1	鈴木 陽 典	青木 潔 栗城 源一 岩崎 高敏 伊原 禎雄
2	浜田 節 男	小畑 良夫 斉藤 博 中川 敏浩
3	横瀬 敏 志	金 秀 樹 遊 淳 子 岡 田 英 俊
4	鈴木 康 生	山崎 信也 板橋 仁 佐々木 重夫
5	大野 敬	佐藤 純 清野 晃 竹内 孝操
6	鎌田 政 善	高田 訓 福井 和徳 島 村 和 宏

〈歯学部講座主任〉

生体構造学	伊藤 一三
口腔病態解析制御学	福岡 章
口腔機能分子生物学	堀内 登
生体材料学	長山 克也
口腔衛生学	廣瀬 公治
歯科保存学	横瀬 敏志
歯科補綴学	清野 和夫
診療科学	鎌田 政善
口腔外科学	大野 敬
成長発育歯学	鈴木 康生
放射線診断学	鈴木 陽典

〈文学部科長〉

共通教科主任	越中 優
英語英文学科長	南 鉄男
フランス語フランス文学科長	藤井 史郎
日本語日本文学科長	田村 嘉勝

〈文学部クラス主任〉

学 科	4 年
英 文	E 石川 勝久
仏 文	F 江島 宏隆
日 文	J 1 加藤 幸一
	J 2 田村 嘉勝

〈薬学部学年主任及びクラス担任〉

学年	主 任	クラス担任
1	野 沢 幸 平	野 島 浩 史 藤 井 祐 一 小 谷 政 晴 山 本 正 雅 堀 江 均 夫 岩 木 和 夫 伊 藤 頼 位
2	高 橋 朋 子	小 畑 俊 男 押 尾 茂 柏 木 良 友

客員教授・非常勤講師

〈歯学部〉

客員教授

● 継続

保存修復学	田上 順次
有床義歯学Ⅱ	石橋 寛二
口腔病理学・臨床口腔病理学	二階 宏昌
病態生化学	山田 正
口腔生理学	山本 隆
オーラルメディシン	川島 康
臨床歯科学	糸瀬 正通
法医学	水口 清

非常勤講師

● 新規

オーラルメディシン	山根 源之
〃	外木 守雄
保存修復学実習	松岡 哲明
〃	田島 直人
〃	塩崎 洋堂
〃	佐藤 正文
有床義歯学Ⅰ・Ⅱ実習	浅井 政一
高齢者歯科学	阪口 英夫
歯科矯正学実習	大原 尚明
美術学	新井 浩
法学	土井 美德

● 継続

経済学・国際関係論	長峯 英樹
日本語表現論	竹田 晃子
解剖学・解剖学実習	佐藤 功二
口腔組織学実習	大桶 志延
口腔生化学	石井 哲郎
口腔生理学実習	辻 満
口腔病理学	高田 隆
口腔細菌学実習	平山 順邦
〃	泉福 英信
歯科薬理学・歯科薬理学実習	沼倉 博人
〃	高橋 顕仁
〃	小川 勝弘
歯科理工学実習	熊倉 学
歯科理工学・歯科理工学実習	覚本 嘉美
歯科理工学実習	泉 俊郎

口腔衛生学・口腔衛生学実習

〃

〃

〃

口腔衛生学実習

歯周病学・歯周病学実習

〃

〃

歯内療法学実習

〃

〃

冠橋義歯学実習

〃

〃

冠橋義歯学Ⅱ

有床義歯学Ⅰ・Ⅱ実習

歯科補綴学総論

臨床実習(シミュレーション)

〃

〃

顎口腔外科学

顎口腔外科学・口腔外科臨床実習

〃

隣接医学

小児歯科学実習

〃

〃

歯科矯正学・歯科矯正学実習

歯科矯正学実習

〃

放射線診断学・歯科放射線学臨床実習

〃

〃

〃

オーラルメディシン

〃

〈文学部〉

非常勤講師

● 新規

中国語Ⅱ(中級)

中国語Ⅲ

中国語Ⅳ

中川 正晴

大澤 武雄

菊地 正樹

天野三榮子

相馬 親良

岡村平八郎

関戸 幹夫

津田 忠政

佐藤 克

山崎 信夫

山田 眞義

加藤 崇

吉田 展也

小野崎 裕

赤川 安正

島崎 伸子

井上 昌幸

菊池 利也

森川 公博

佐熊 研

椎木 一雄

宮島 久

澤 裕一郎

伊藤 健

國崎 幸史

金子 知弘

原 憲司

田辺 俊昭

荻野 久

田所 生利

笹野 高嗣

丸茂 町子

櫻井 孝

小林富貴子

片桐 重雄

小林 博

安藤 好恵

赤松美和子

〃

西洋史概説

土井 美德

● 継続

アメリカ文学史
日本語学講義
卒業研究
日本語学講読Ⅱ
日本語学演習Ⅱ
日本語概説
日本文学演習Ⅰ
書道演習Ⅰ
書道演習Ⅱ
マス・メディア論Ⅱ
美術史
比較文化論Ⅰ
ラテン語
西洋古典文学概説
マス・メディア論Ⅰ
言語学概論
ユダヤ史
比較文化論Ⅱ
資料組織演習
学習指導と学校図書館(前)

中野富士雄
佐藤 宣男
竹田 晃子
〃
〃
〃
後藤 康二
加納 雅弘
千葉 敏勝
伊藤 裕顕
磯崎 康彦
〃
古川 英明
〃
三木 賢治
千種 眞一
中村 青生
〃
矢野 光雄
〃

〈薬学部〉

非常勤講師

● 新規

法 学
有機化学Ⅲ
薬品製造学実習

稲庭 恒一
加藤 國基
〃

● 継続

倫 理 学
科学と哲学
現代経済論
西欧文化論
くすりと法
日本語表現論
英語Ⅰ
英語A
英語B
情報科学
情報科学実習
有機化学Ⅰ
有機化学Ⅱ

末永 恵子
小笠原正薫
小沼 宗一
中村 青生
小松 進
佐藤 宣男
中村富士雄
福富 靖之
〃
加藤 勝洋
〃
加藤 國基
〃

人 事

〈指定職選任〉

天野 義和	歯学部長	4月1日付
青木 義孝	文学部長	〃
清野 和夫	附属病院長	〃
鈴木 陽典	歯学部学生部長	〃
加藤 幸一	文学部学生部長	〃
鈴木 康生	大学院研究科長	〃

〈異 動〉

	旧	新	
宮澤 忠蔵	教授 口腔衛生学	教授 生体材料学	4月1日付
杉田 俊博	助教授 口腔外科学	病院助教授 附属病院	〃
増子 弘信	総務部長 総務部	図書館事務長 図書館事務部	4月12日付

〈昇 任〉

	旧	新	
福井 和徳	講師 成長発育歯学	助教授 成長発育歯学	4月1日付
島村 和宏	〃	〃	〃

石田 喜紀	助手 生体材料学	講師 生体材料学	〃
石原誠一朗	附属助手 附属病院	病院講師 附属病院	〃

黒田 栄子	〃	〃	〃
田中 久	〃	〃	〃

〈昇 格〉

	旧	新	
箱崎 秀勝	守衛 総務部	守衛主任 総務部	4月1日付
山田 博	技術職員 総務部	技術主任 総務部	〃
坂本 新一	総務課長 総務部	総務部長 総務部	4月12日付

〈兼 任〉

山森 徹雄	助教授 歯科補綴学	病院教授 附属病院	4月1日付
-------	--------------	--------------	-------

山崎 信也	助 教 授 口腔外科学	病 院 教 授 附 属 病 院	4月1日付	林 由季	病 院 助 手	附 属 病 院	4月1日付
菊井 徹哉	講 師 歯科保存学	病 院 助 教 授 附 属 病 院	〃	早田 幸夫	〃	〃	〃
川合 宏仁	講 師 口腔外科学	〃	〃	東田 大輔	〃	〃	〃
高録 伸郎	助 手 歯科保存学	病 院 講 師 附 属 病 院	〃	松村 奈美	〃	〃	〃
白井やよい	助 手 歯科補綴学	〃	〃	松本 一文	〃	〃	〃
洪澤 洋子	助 手 口腔外科学	〃	〃	森川 拓哉	〃	〃	〃
小板橋 勉	〃	〃	〃	森本 光	〃	〃	〃
影山 勝保	助 手 診療科学	〃	〃	薬学部			
松山 仁昭	助 手 成長発育歯学	〃	〃	曾根 孝範	教 授	薬品製造化学	〃
<任 用>				岩間 正典	〃	微生物学	〃
歯学部				石幡 明	〃	機能形態学	〃
廣瀬 公治	教 授	口腔衛生学	4月1日付	荒井裕一朗	〃	薬 理 学	〃
中 貴弘	助 手	歯科保存学	〃	米原 典史	〃	〃	〃
永田 智久	〃	歯科補綴学	〃	林 茂寛	助 教 授	〃	〃
茂呂祐利子	〃	生体構造学	〃	多田 均	〃	医療薬剤学	〃
龍方 一朗	〃	生体材料学	〃	宮嶋 勝春	〃	物理薬剤学	〃
秋葉 祐輔	病 院 助 手	附 属 病 院	〃	志村 紀子	講 師	放射化学	〃
江口 和彦	〃	〃	〃	倉本 敬二	〃	医療薬剤学	〃
大野 敦司	〃	〃	〃	大越絵美加	助 手	薬 学 部	〃
大道 美穂	〃	〃	〃	勝山 壮	〃	〃	〃
加藤 智也	〃	〃	〃	八卷 史子	〃	〃	〃
加藤 史仁	〃	〃	〃	方波見幸治	〃	〃	〃
熊野 裕仁	〃	〃	〃	佐藤 留美	〃	〃	〃
黒田 知英	〃	〃	〃	村田 篤信	〃	〃	〃
小磯 和夫	〃	〃	〃	江原 潤平	〃	〃	〃
近藤 麗	〃	〃	〃	小野 哲也	〃	〃	〃
笹原 麻美	〃	〃	〃	熊本 隆之	〃	〃	〃
関 宗浩	〃	〃	〃	長嶋 友美	〃	〃	〃
関根 貴仁	〃	〃	〃	渡邊 由香	〃	〃	〃
高崎 俊輔	〃	〃	〃	<採 用>			
田辺 理彦	〃	〃	〃	齋藤ゆかり	電 話 交 換 手	総 務 部	4月1日付
中島 宗隆	〃	〃	〃	国分 大樹	技 術 職 員	〃	〃
中村 真治	〃	〃	〃	二瓶 大樹	〃	〃	〃
				小林由希江	歯科衛生士	看 護 部	〃
				鈴木 美香	〃	〃	〃
				<平成18年度臨床研修歯科医師>			
				市川恵太郎		植木 隆一	
				小野 勇太		金子 友紀	
				城戸 政彦		熊野 仁也	
				桑波田耕円		小柴 裕二	
				小林 克紀		齋藤 修	

篠島 美香	鈴木 智大	菱澤 綾子	鈴木 淳
谷口 幸平	田沼 裕志	高橋 進也	高橋 良治
土田 雄太	永山 晃之	田中 慎一	土田 雅人
奈良 克洋	南條章太郎	時田 将吾	仲里 耕治
山内 貴子	依光 高志	西村 幸造	野井 晃正
若杉 洋平	和田 裕一	夫津木詩乃	増井 健志
渡辺 聡	渡辺 広一	増井 友美	宮内 護
秋元 周一	安藤 善亮	柳田まさえ	横山 勝由
猪狩 道代	石橋 洋幸	渡部 卓希	
伊東 秀人	井上 恵理		
岩木 佑介	岩坪 敬宗		
大川内雅哉	大河原千恵		
太田 麻生	荻生 丈徳		
小野田俊介	加川千鶴世		
木暮 昌卓	齋藤 綱太		
坂巻 徹	佐藤 潤		
佐野しおり	篠田 奈々		

慶 弔

<訃 報>

慎んでお悔やみ申し上げます。

●総務部 坂本 新一

義母 香西 ヒサ 殿 (81歳) 4月17日

<学報編集委員>

委員長 清水 秋雄			
安藤 勝	江島 宏隆	遠藤 進	太田彌一郎
菊池美奈子	清浦 有祐	小池 勇一	小林 克也
坂本 新一	佐藤 安宏	千葉 有	辻 康哲
野島 浩史	深沢 行雄	増子 文夫	

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸甚です。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先/奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報107号 (通算No.232) 平成18年4月21日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水 秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp